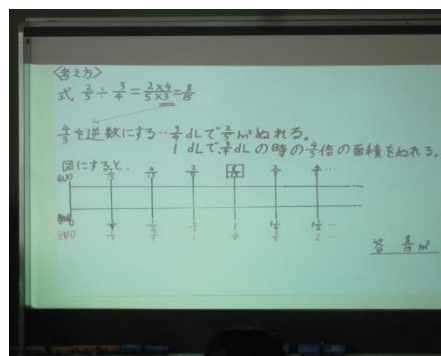


本時の振り返り

1 第6学年 『分数のわり算を考えよう』(2/11)

2 本時の概要

本時は(分数)÷(分数)の第2時である。第1時で $\frac{3}{4} \div \frac{2}{5}$ と立式してその理由を考えた上で、本時ではその計算の仕方を既習の学習を使って考える活動をした。分数のわり算の計算を、単に「逆数をかける」と計算方法の暗記に止めるのではなく、なぜその計算の仕方で正しいのかを思考し、それを伝え合ったり、話し合ったりすることで理解を深めさせることをねらった。



3 本時の振り返り

(1) 多様な考えを知ることで思考を深め、考える楽しさを味わう「かける数の逆数をかける」という計算の仕方を知っている児童や、それによって正しくかつ素早く計算できる児童が多くいた。しかしそれらの児童が、なぜその計算の仕方でよいのかを的確に説明できるわけではなかった。



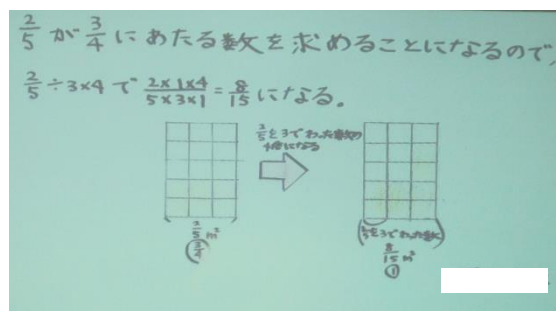
多くの児童が計算のきまりをつかかって説明しようとしていたが、その他にも数直線・面積図などを使った説明や、分数を整数に直して考えるなどの計算の仕方など、全部で

8通りの計算方法を発表させた。一つの問題でも多くの考え方ができることを知ることで、算数の思考力を豊かにし、考えることの楽しさを味わわせるようにした。また、それらを発見した友達のよさを認め合うことで、学習に自信をもたせるようにした。

(2) まとめにつながる検討の在り方

(共通点を見いだすことで一般化を図る)

発表終了後、考え方の共通点を見いだすことで思考をつなげていくまとめの部分に課題が残った。



① 発表で取り上げられる数と支援に費やせる時間

問題把握→自力解決→発表・集団検討→まとめ→当てはめ問題と行う学習過程を考えると、本時では発表の数が7名と多すぎた。意見を広げ、多様な思考に気付かせることには有効かもしれないが、つまづいている児童がついてこられたか、一つ一つの考えを深められたか、という点では課題が残った。

② 発表ボードのかかせ方と発表の仕方

発表の際に児童がかいたボードの情報量が多く、かくのに時間がかかることや大切なことが伝わりづらいなどの難点があった。日常から発表の練習を積み重ねると共に、かき方の指導も続けていくことが大切である。

発表ボードのかき方と同時に、発表の仕方も改善する点が多くあった。分かりやすく全体の前で話せるよう、スピーチなど他の活動と連動させながら日常から練習を積み重ねること

が不可欠となる。

### ③ 聞いている児童の役割

発表を受けて、その意見に対して聞いている児童が感想や質問などの意見を切り出す。さらに、それを受けて発表した児童を中心に考えを切り返していくような話し合いの活動を通して理解が深まると考える。

### ④ まとめの仕方の習慣化

まとめの部分が、教師主導ではなく児童同士の意見交換の中で進められるようにする。そのために、今回学び合いの手引きを作成して児童にまとめのモデルを示した。しかし、それが今回の授業ではうまく機能していなかったため、他教科のまとめの時間でも活用するなどして、定着を図るとともに、活用できるように指導していく。

## 4 協議内容

### よかった点

- ・誰と誰の考えが近いなど、言えていた。分かりやすいように話すことを理解していた児童もいた。
- ・いろいろな考えが出てきて、学び合えた。着目すべき点を焦点化し、先生が、一般化していたのがよかった。
- ・一人ひとりの考えをうまく引き出していた。別の考え方に気付く時間もあるとよかったが。
- ・まとめを穴埋め形式にして、児童自身が書くようにしていたのがよかった。

### 改善点

- ・児童の発表の後の補足も児童ができるとよかったのでは。児童同士で学び合ったり、教え合ったりするほうが理解しやすいのではないか。
- ・本当に分からない児童は整数にするほうが分かりやすい。Bレベルでも上位の児童は、数直線で分かると思うが、「では1 dLに対して」とした時に、止まってしまう児童がいると思う。理解できない児童にとっては難しいのではないか。分母を消すといいよねと手取り足取りでやっていく。
- ・計算の仕方を考えるというよりは1にするにはどうしたらいいか、を考えさせるほうが取り組みやすい。

## 5 指導講評

講師：国立教育政策研究所総括研究官 千々布敏弥先生

- ・今日の流れだとペアで学ばせるのは難しい。もっと早い段階で相談できるとよい。

講師：国学院大学 吉川成夫 先生

- ・今回は大人でも難しい問題。考えるときに、今までの経験知識を生かし、言葉・数・式・図などを使って説明できることが大事。
- ・算数のできる児童、苦手な児童がいるので見通しという言葉も出たが、どう進めていくか手がかりを与えてあげるとよい。説明が早口、分かりにくい。分かりやすい説明ができるように指導していく。自分にとっても分かりやすく、相手にとっても分かりやすい。楽しい雰囲気で行うのが分かりやすかった。
- ・説明の仕方としてゆっくり、言葉で説明しながら図を使う等、分かりやすさで振り返るのも大切。
- ・先生の視点で分類整理して、図を使って 計算の性質を使って・・・と分類するとよい。それがまとめて活かすということ。